

# 戸山サンライズ

2016年

秋号

特集

リオ2016  
パラリンピック競技大会



スポーツ

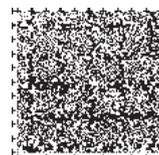
東京2020パラリンピック競技大会に向けた取り組み

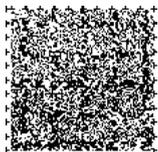
レクリエーション

障がいのある方々と地域とのつながりについて

グラビア

第31回 障害者による書道・写真全国コンテスト」結果発表





←これは、SPコードです。  
専用読み取り装置の使用により、誌面の内容の音声出力が可能です。

### 第31回障害者による書道・写真全国コンテスト

写真部門 金賞 「雨上り」  
岐阜県 可児 芳春

(作品PR)

雨上りで雲がぽっかり出ていた、道路のすぐ横で撮影したので、車の風圧で水滴が揺れる。又風が吹いて来て揺れる。大変だ。水滴が風に揺れるとボケてしまうので、撮るのに苦労しました。水滴に花は良く見えますが、城を映り込ませるのがいいアイデアかなと思います。

(寸評)

雨上がり日、植物の葉に付いた水滴にお城が映り込み、小宇宙が見事に表現されています。白い雲と赤いラインが作品を強めています。



このコンテストは、障害者の文化活動等の推進を図ることで技術の向上、自立への促進並びに積極的な社会参加を目的として、(公財)日本障害者リハビリテーション協会(全国障害者総合福祉センター)の主催により毎年開催されているものです。第31回を迎えた今回のコンテストでも、全国各地より180点(写真部門)にのぼる素晴らしい作品がよせられました。

## 目次

2016年秋号

### ■特集

リオ2016パラリンピック競技大会 ————— 大槻 洋也 1

### ■スポーツ

東京2020パラリンピック競技大会に向けた取り組み ————— 中森 邦男 10

### ■レクリエーション

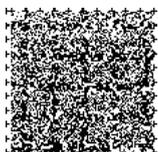
障がいのある方々と地域とのつながりについて ————— 野々村雅人 13

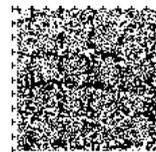
### ■ライフサポート

「社会保険Q & A」 ————— 高橋 利夫 16

### ■グラビア

「第31回 障害者による書道・写真全国コンテスト」結果発表 ————— 17





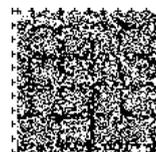
# リオ2016パラリンピック競技大会

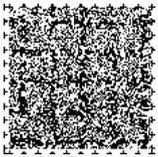
日本選手団  
団長 大槻 洋也

ブラジル リオデジャネイロにおいて、南米で初めてのパラリンピックが、2016年9月7日（水）開会式～18日（日）閉会式（12日間）が開催されました。

夏季パラリンピック大会として、第15回目となる大会です。大会の名称は「Rio 2016 Paralympic Games（通称リオパラリンピック）」、大会ビジョンは“A new world”～新しい世界へ～です。まさに、南米で初のパラリンピック開催は、パラリンピック・スポーツの幕開けの大会になりました。大会運営主体は、国際パラリンピック委員会（IPC）、

リオ2016オリンピック・パラリンピック組織委員会（ROCOG）が運営しました。オリンピック・パラリンピックが同じ組織委員会で運営されるようになったのは、2008年北京パラリンピック競技大会からです。2008年以前のオリンピック、パラリンピックは別々の組織が運営していました。オリンピック、パラリンピック運営を同じ組織が実施するメリットとして、オリンピックを運営した大会運営ノウハウがパラリンピックにおいても活かされるため、大変スムーズな運営となります。





私自身も、今回のリオパラリンピックは、6回目のパラリンピックとなります。1996年(アトランタ)、2000年(シドニー)、2004年(アテネ)、2008年(北京)、2012年(ロンドン)の5大会は、車いすテニス競技の監督として帯同しましたが、リオは選手団団長、本部役員として選手、競技スタッフの皆さんをサポート(後押し)する役割であると自覚し参加しました。競技現場とは違い「アスリート・ファースト」を念頭にした立場で、パラリンピックを広い視野で、大会運営・日本選手団の競技力、競技団体の現状・他国の競技力の状況等を把握する事ができました。

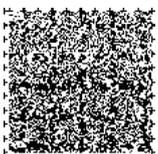
今回、リオパラリンピック参加国は、159カ国・地域(前回ロンドン大会:164カ国・地域)です。ドーピングの問題で、国際オリンピック委員会(IOC)、IPCはロシアの参加に制限を設けました。IPCはロシアの参加を全面的に禁止しました。又国の経済状況等で不参加の国もあり、前回より参加国が少なくなりました。

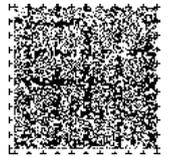
開催規模は、22競技・528種目うち女子種目225(43%)、参加選手約4,350人うち女子選手1,690人(ロンドン大会より9.9%増加)、前回のロンドン大会は、20競技・503種目、参加選手は4,200人でした。今回のリオパラリンピックからの新競技は、①トライアスロン6種目 ②カヌー6種目が実

施されました。日本選手団は、選手132人(男子86人・女子46人)、競技パートナー15人(陸上競技の伴走者、自転車のパイロット等)、競技団体役員・コーチ67人、本部役員18人、合計232人。実施22競技中、17競技に参加しました。不参加競技は、5人制サッカー(視覚障がい)、7人制サッカー(脳性まひ)、ゴールボール(男子)、セーリング、車いすフェンシング、シッティングバレーボール(男子・女子)、車椅子バスケットボール(女子)が出場権を得られませんでした。

今回、日本選手団の成績目標は「金メダル数10個・金メダル獲得ランキング10位」と、2020年東京パラリンピック競技大会で好成績を残すためにも、リオパラリンピックは重要な大会としてとらえ参加しました。

今回の大会で、大きな問題点は、ブラジル リオデジャネイロまでの渡航時間です。北米経由、ヨーロッパ経由どちらを選択しても、トランジットを含めると約30時間となります。この渡航にかかる時間は、オリンピック選手でもかなりの肉体的・精神的疲労になります。パラリンピック選手に関しては、特に重度障がいの方々は、大きな負担になったと思います。過去のパラリンピック開催地への渡航は、選手団全員が一斉に出発・帰国をしていた例が多く、2004年のアテネ大会は、チャーター機で渡航したこともあります。しかし





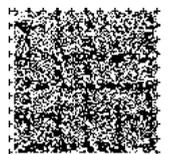
今回は、選手の疲労及び調整を考えて、アメリカ・カナダ等で事前キャンプを実施し、時差調整を行い、リオデジャネイロへ入った競技団体も複数ありました。各競技団体が、競技実施日に合わせて現地入り(選手村)する選手が多くなっています。

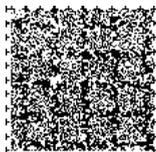
私自身は、8月30日に出発し、9月1日に選手村に入村しました。入村に際して、事前に登録してある「アクレカード(選手団としての証明書)」を有効にし、初めてリオパラリンピック日本選手団の一員として認められます。

入村後は、事前に入村していた本部役員の部屋割りに従い、自身の部屋へ荷物等を移動します。選手村はマンション形式の建物で、オリンピック時には、日本チームが使用していた建物を使用することになりました。左右の棟に分かれて建てられている構造で、左右各3機、合計6機のエレベーターがあり、今までの経験上、6機のエレベーターがあれば、車椅子の競技団体は安心して移動できます。エレベーターの少ない選手村であると、車椅子の競技団体は、移動の時間等もスケジュールしななければならない為、大変大きなストレスになる事を、私自身経験しています。又 日本に割り当てられた建物の棟は、選手村内のレストラン

ンが正面にあるため、食事に行く際も大変便利でした。

選手村では、必ず「入村式」が開催されます。4~5カ国が同時に入村式に参加し、歌とダンスで歓迎され、選手村村長に選手団として記念品の交換等のセレモニーがあります。今回の入村式では、リオデジャネイロの日本人小学校の生徒の皆さんも見学のため特別参加し、選手団と記念撮影、選手村見学と生徒の皆さんには良い思い出となったと思います。我々選手団も生徒の皆さんから、激励の寄せ書きをいただき、日本選手団の建物の入り口正面に大会期間中掲示し、毎日激励をいただきました。





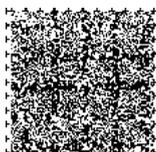
入村式後は、各競技団体とも試合会場にて練習及び現地視察を実施します。選手村から試合会場までの時間等、どのようなアクシデントがおきても対応できるようにします。

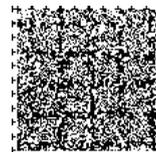
9月7日、いよいよ開会式です。会場は、サッカーのワールドカップでも使用された、ブラジルにおけるサッカーの聖地「マラカナンスタジアム」で夕刻より開始されました。各国の国旗を先頭にスタジアム内を行進することは、何度経験しても晴れやかで、すがすがしい気分になります。客席で

日本の国旗が降られると、大変心強く感じます。この遠方の地まで、日本から応援に来てくれた方々、現地

で仕事をされている方々、またはブラジルは日本から移住された方々が多いので、日系の方々も多く応援をいただいていると聞き本当に感激しました。

開会式が終了すると、いよいよ各競技団体は試合モードにスイッチが入ります。今回のリオの会場の特徴は、選手村よりバスで15分程度の所に、オリンピックパークがあり複数の競技会場がパーク内に立地しているため、移動が少なく観戦することができました（水泳・ボッチャ・ゴールボール・ウィルチェアーラグビー・車椅子バスケットボール・車いすテニス・自転車）。





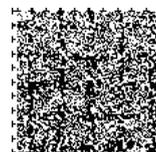
今回、リオパラリンピックについて、「安全性の確保」「パラリンピックの関心度・注目度」が事前に懸念されていました。事前調査にリオデジャネイロへ行った際にも、関係者のレクチャーでは、市内の安全性についての注意喚起がありました。又、パラリンピックの関心度・注目度について、直前までチケットの売り上げ不振がメディア等で紹介されていました。安全性の確保に関しては、各競技団体へ事前に選手村外での行動に関し、「危機管理マニュアル」を確立するようにしました。これにより、選手村内本部との連携を強化しました。

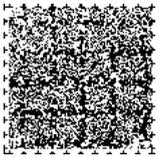
「パラリンピックの関心度・注目度」に関しては、チケット売り上げが悪く、競技会場は空席が目立つのではないかと心配しましたが、パラリンピック開会式が始まる直前より、チケットの売り上げが伸び、最終的にはオリンピック以上の観客数になりました。

各会場とも、当然ですがブラジルの選手が出場すると、大きな拍手・掛け声があり大変盛り上がっていました。又、ブラジルの国民性でしょうか、試合会場を盛り上げる事が大変上手で、他国選手団・応援団も楽しく観戦していました。

2020年東京大会で日本もブラジルをお手本にしなければならないのは、街中を選手が移動していて、少しでも困った様子を見かけると、言葉は通じなくても「どうしました？」という表情で助けてくれる事が多々みられました。日本のユニホームを着用し移動していると、「ヤーパン・ヤーパン」と気さくに声をかけてくれます。これは、2020年までに、日本国内におけるソフト面「心のバリアフリー」に関して、早急に広報、教育が必要であると強く感じました。

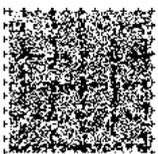
開会式後は、各競技とも熱戦が繰り広げられました。前述したように、今大会の成績目標は、「金メダル10

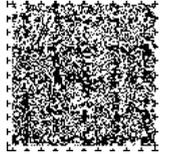




個・金メダル獲得国別ランキング10位」と2020年東京パラリンピック競技大会において、好成績を残すためにも必要な目標設定です。各競技のメダル候補選手がメダル獲得をする場面に多く立ち会わせてもらいました。今回初めてメダル獲得した、団体競技のウィルチェアーラグビー（銅メダル）、ボッチャ（銀メダル）を獲得しました。前回のロンドンパラリンピック後の強化策が成功した競技であると思います。

今回のリオパラリンピックには、2020年東京パラリンピック競技大会組織委員会等々関係者の方々が多数視察に来られていました。又 日本の紹介として、リオデジャネイロ市内に「ジャパンハウス」を設置し、オリンピック期間中よりパラリンピック終了まで、日本の多種多様にわたることにに関して紹介され、多くのブラジルの方々、パラリンピックに参加している他国の方々が見学に来ていました。





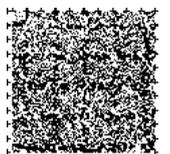
今回のリオパラリンピックで特筆すべきことは、国内におけるパラリンピック所轄官庁がスポーツ庁へ移管して初めての夏季パラリンピック競技大会への参加です。過去のパラリンピックとは違う思いで選手団は参加しました。鈴木大地スポーツ庁長官もパラリンピック期間中は精力的に各競技を視察・応援をしていただき、各競技の選手達に多くの声援をいただきました。

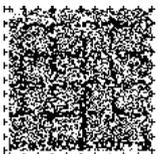
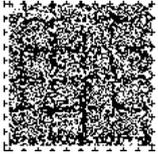
最終的な成績は、銀メダル10個・銅メダル14個

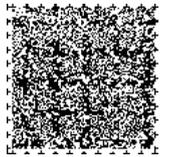
計24個のメダル獲得となりました。メダル獲得総数では、前回のロンドン大会を上回ることができましたが、金メダル獲得10個が達成できなかった現実を各競技団体は、今回の結果を客観的に分析し、強化策再構築をしなければなりません。

9月18日に閉会式が開催され、パラリンピック旗が、小池都知事の手に渡りました。いよいよ、2020年東京パラリンピック競技大会開催が現実のことであると実感いたしました。

今回のリオ2016パラリンピック競技大会は、選手団にとっても、又、次期開催国、日本にとっても大変大きな意味をもった大会であったと痛感いたしました。次回は、ホスト国として何ができるのだろうか、どの様に受け入れをするのだろうか、そして、2020年東京パラリンピック競技大会では日本選手団として最高のパフォーマンスを発揮して好成績を残せるのか、課題が多く山積した大会でした。

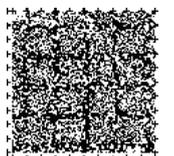
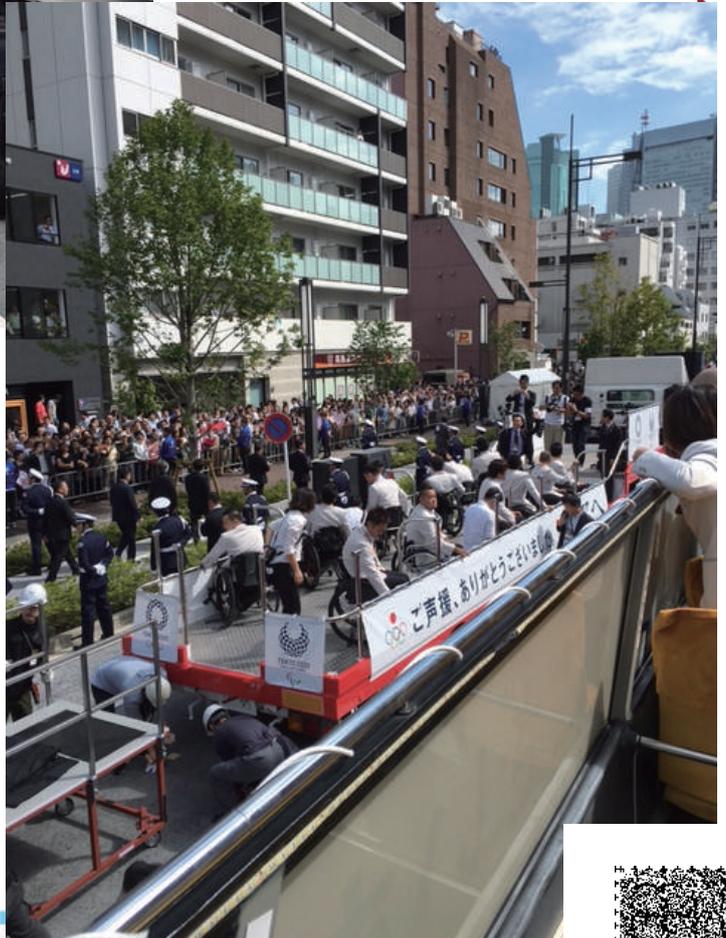
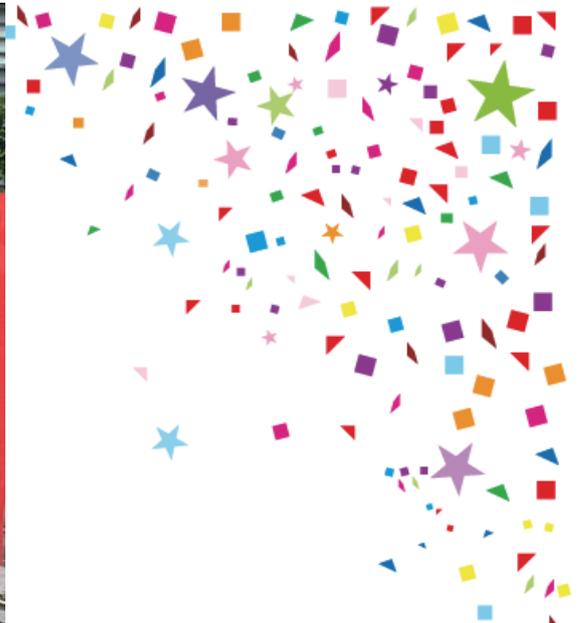


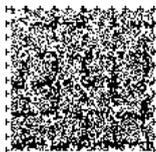




リオデジャネイロより帰国後、10月7日(金)に、オリンピックメダリストとパラリンピックメダリストが、東京の銀座を中心に初めて合同パレードを行いました。当日は平日にも関わらず、80万人の方々に声援をしていただきました。沿道の方々

より、パラリンピック選手の名前を大きな声で呼んでいただき、選手全員が感激をいたしました。このパレードに参加して、日本のパラリンピックが新たなスタートをした日であると実感いたしました。





# 東京2020パラリンピック競技大会 に向けた取り組み



(公財)日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

事務局長 中森 邦男

## はじめに

近年の夏季パラリンピック競技大会における日本代表選手団の成績は、金メダルランキングで見ると、2004年大会は10位(金17個・総メダル52個)、2008年大会は17位(金5個・総メダル27個)、2012年大会は24位(金5個・総メダル16個)と低下傾向を続けてきた。これに対して、日本障がい者スポーツ協会(以下「JPSA」)は、2013年3月に「長期ビジョン」を策定してアクションプランの推進に取り組み、また、東京2020パラリンピック競技大会(以下「東京2020年大会」)開催決定を契機として、障がい者スポーツ行政の文部科学省一元化やスポーツ庁発足による国の施策強化がはかられ、企業の支援も拡大するなど、障がい者スポーツ推進の環境は大きく変わりつつある。

リオ2016年大会は、こうした状況において、これまでの低下傾向を巻き返し、東京2020年大会でのメダル目標達成への足掛かりとなるよう、各競技・選手の直近の実績等を踏まえ、金メダルランキング10位(金10個)の目標を設定して臨んだ。しかし、リオ2016年大会は、全体で220の世界新記録が生まれたように、上位5ヶ国で金メダルの約

52パーセントを占めるなど世界の競技力向上は著しい中、日本代表選手団の成績は金メダルゼロという非常に残念な結果に終わった。一方、銀メダル10個、銅メダル14個で、総メダル数としては24個とロンドンの1.5倍に増加し、ボッチャやウィルチェアーラグビーのような重度障がい者の競技で初のメダルを獲得したこと、入賞者も含め女性や若手選手の活躍が目立ったことなど、将来に希望の持てる成果も上げた。

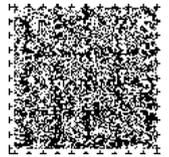
このような結果に対し、JPSA・日本パラリンピック委員会(以下「JPC」)は各競技団体と協力して、リオ2016年大会の成績を振り返り、特に金メダルがゼロとなった原因を究明し、課題を明確に把握して、東京2020年大会でのメダル目標必達のための戦略の立て直しと実行に早急に取り組むことにしたい。

## 1. 2016年リオ大会日本代表選手団の 金メダルゼロの主な原因

各競技・選手の直近の実績を踏まえた金メダル目標10個に対してゼロとなった主な原因として次の点が挙げられる。

No	2016	2012	2008	2004
1	中国 107	中国 95	中国 89	中国 63
2	イギリス 64	ロシア 36	イギリス 42	イギリス 35
3	ウクライナ 41	イギリス 34	アメリカ 36	カナダ 28
4	アメリカ 40	ウクライナ 32	ウクライナ 24	アメリカ 27
5	オーストラリア 22	オーストラリア 32	オーストラリア 23	オーストラリア 26
	計 274	229	214	179
	総メダル 528	483	473	519
	% 51.89	47.41	45.24	34.49





(1) ベストパフォーマンスを発揮するサポート体制が不十分

選手がフィジカル面・メンタル面等においてベストコンディションで大会に臨めるための総合的なサポートが不足している。

(2) 世界の金メダル候補選手の情報分析が不十分  
世界ランキングや世界記録更新の動向等に対する情報不足により、ライバルの把握が十分できていない。

(3) 金メダル獲得可能性のある選手層の薄さ

日本代表選手団におけるMPA (Medal Potential Athlete) の中でも、世界トップクラスの実績のある選手が少なく、また、そのクラスの選手も高年齢化している。

(4) メダル上位国に比べ競技力強化に向けた取り組みの遅れ

強化費が大幅に増額したにもかかわらず、ハイパフォーマンスサポート事業 (2014年～)、専任コーチ制度 (2015年～)、競技別ナショナルトレーニングセンターの設置 (2015年～)、ナショナルトレーニングセンターの拡充 (2019年～) 等、競技力強化が遅れている。

## 2. 東京2020年大会メダル目標達成のための課題

リオ大会よりさらに高い東京大会のメダル目標を達成するためには、全競技パフォーマンスの最大化を図るとともに、これまでよりも早い段階でメダル獲得の可能性のある競技・選手をターゲットとして重点化していく強化環境整備の実行計画を策定し、関係機関との連携により確実に遂行していく体制が不可欠である。

(1) メダル獲得の可能性のある競技・選手の的確な選定とフォロー

インテリジェンス (情報戦略) を強化し、メダル上位国の競技力分析、強豪国・選手に関する情報分析等を踏まえ、当該競技・選手を的確に定めフォローする。

(2) メダル獲得の可能性のある競技・選手に必要な強化環境の整備

- ① 医学情報等に基づく科学的強化策の徹底 (筋力・関節可動域等の体力測定、瞬発力・持久力・スピード等の競技能力測定、記録・ラ

ンキング等の競技力の迅速な把握、栄養調査、メンタル調査等)

- ② 練習場所・練習環境の充実 (日常的練習場所及び強化合宿等の集中トレーニング施設等の確保、練習時のコーチ・ドクター・トレーナー・スーパーバイザー・メカニック・栄養士等の戦略的支援等)
- ③ ジュニアアスリートの発掘 (タレント発掘) をはじめとする競技者育成プログラムに基づく一貫指導體制の促進と十分な選手層の確保
- ④ ハイレベルな競争環境の充実と国際競技力の向上 (海外遠征、国際大会の日本開催、海外有力選手の国内大会招致等)
- ⑤ 車いす・義足など競技用具の研究開発促進
- ⑥ 選手・スタッフが競技に専念できる環境づくり等の強化環境を整備する。

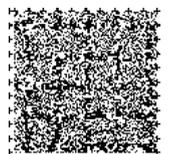
(3) オールジャパンの連携協力体制

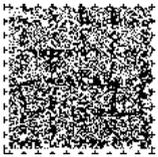
強化環境整備には、JPC と各競技団体の連携はもとより、スポーツ庁、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会およびその関係団体をはじめ、関係機関との連携は不可欠である。特に安定的な財源確保の観点から、国の支援強化と企業のスポンサーシップの拡大を期待し、責任あるメダル目標達成の実行計画と遂行体制を構築する。

## 3. 2020年東京大会に向けた取り組み

(1) 「東京2020特別強化委員会」の新設

- ① 東京2020年大会の成功の大きな柱の一つである「日本代表選手団の大活躍、金メダルランキング7位」という目標を達成するため、その目標達成に最終責任を持つJPC内に、東京2020年大会に向けた強化戦略策定・実行に特化した司令塔として「東京2020特別強化委員会」を新設する。
- ② 「東京2020特別強化委員会」のメンバーは、JPC関係者のみならず、オリンピック関係者、インテリジェンス、医学サポート、一般スポーツ指導者など、幅広い分野の有識者で構成していく。
- ③ 「東京2020特別強化委員会」においては、
  - a. 東京2020年大会の金メダル目標達成に向けた総合戦略策定
  - b. 「特別強化競技・選手」 (以下





「メダルターゲット」としてメダル獲得の可能性のある競技および選手の絞り込み

c. メダルターゲットに必要な強化環境の整備等のメダル目標達成計画の策定・実行管理などを行なっていく。

(2) 「22競技・代表者会議」の新設

① 目標必達に向けて、JPC と各競技団体との連携協力を図るため、「東京2020特別強化委員会」の中に、東京2020年大会の22競技を対象とした「22競技・代表者会議」を新設する。

② 「22競技・代表者会議」では、メダル目標の共有化とメダル獲得に向けた PDCA サイクルの確認、および競技力向上に向けた共通課題の解決を図っていく。

(3) スポーツ庁との連携

具体的な施策を展開していく上では、スポーツ庁が策定した「競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）」に基づき、ハイパフォーマンスセンターに設置される、オリンピック・パラリンピック競技の強化戦略プラン支援のための「協働チーム」とも十分連携しつつ推進していく。

4. その他の課題

(1) タレント発掘

第1にタレント発掘で、代表選手クラスの強化環境は大きく改善されたが、次のレベルの選手が毎日練習できる場所、コーチや医科学スタッフによるサポート体制、強化費や競技用具の選手負担など多くの課題が残っている。これら次世代の選

手を NF の強化選手に指定する仕組みや日本代表に漏れた選手が、他の競技にチャレンジする取り組みも必要となる。

(2) NF の組織基盤の強化

第2に NF 強化費や強化選手の強化環境が大きく改善している中、その活動を有機的に発展させるべく、NF のマネージャーや事務局スタッフの専任化など NF の組織基盤の強化があげられる。さらに、国際資格を含めた強化スタッフの育成や選手強化を担当するコーチ、トレーナー、競技パートナー（ガイドランナーなど）などの強化スタッフへの経済的な支援、国際大会参加支援などがあげられる。

(3) 医科学支援の充実

第3に、最新のスポーツ科学に基づいた支援があげられる。これには、当協会が実施している医科学映像サポートをより充実させること、JSC や大学が実施している医科学サポートや競技用器具の研究・開発の充実と合わせ、組織間の連携をより深める必要がある。

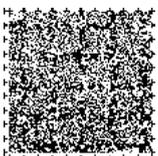
(4) オリンピック競技との連携

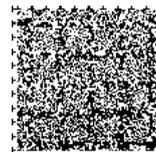
第4に、オリンピックで過去最高の成績を上げたオリンピックスポーツからのコーチ派遣を含め最新のスポーツ科学の支援が望まれる。

最後に、スポーツ庁、JSC、JOC、JOC 加盟競技団体、JPC 加盟競技団体や大学などスポーツ関係組織・機関との連携をさらに深めていくことも重要である。これらの課題改善・克服は大きな労力を要することになるが、関係する組織や部署と連携を図り、創意・工夫をもって進めていきたい。



(多くのブラジル国民が集まったオリンピック公園)





## 障がいのある方々と地域とのつながりについて

レクスポあさひかわ  
会長 野々村 雅人

「レクスポあさひかわ」は、障がいとまちづくりという課題にミッションをともに感じたメンバーを中心に平成26年の8月に任意団体として立ち上げ、H27、28年度と「市民の企画提案による協働のまちづくり事業」の採択を受け、旭川市障害福祉課と協働で様々な事業を進めています。主に知的に障がいのある方、発達に障がいのある方と向き合う機会が多いのですが、人は余暇の部分などいろいろな要素の中で生きている以上、福祉サービスだけでは埋まらない時代がやって来るとも予想されることと、在宅の方など主に通所だけでは埋められない世界があるような気がし、今の私に何が出来るのか…という思いからインフォーマルな部分から向き合っていきたいと思いました。

単純に文化とスポーツという区分けだけでない、障がいのある人もない人もレクリエーション・スポーツを多彩なコラボレーションやいろいろな価値観から追求する、人が生き続ける中での楽しさやその人らしさ、この活動を通じて誰もが家から出て気軽に楽しめる、市民の方と一緒に活動をするところから何かが始まるようなまちづくりを展開、表現する事により、旭川に住んでいて良かったと思える。この会がその一端になれば良いと思い、現在活動をしています。

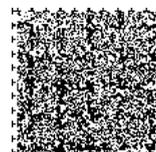
旭川の方々といろいろな角度から「人+人=地域」の中でのつながる、伝えあう活動を形だけではなく、人のかかわりのプロセスに基づいたまちづくりもミッションに取り入れながら活動を行っています。「障がい=人間らしさ」の埋まらない世界がその方のそれぞれの状況に応じてあり、その解決が社会的課題ともなると思います。少子高齢化やまちが機能しない時代の中で、出来る出来ないだけでなく、地域おこしやまちづくりをめざし

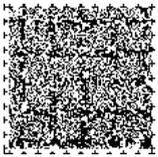


てレクスポを続けることがその方の隙間を埋めることになる…そう思いながら障がいのある人々と向き合っています。今年度の活動に重点をおいでお伝えしたいと思います。

### みんなの輪～和を通じて楽しもう

平成28年9月3日、旭川市市民活動センターCoCoDeにて『みんなの輪～和を通じて楽しもう』を開催！推定500人弱の参加者の皆さんの力でそれぞれの想いがカタチになっていく感じがしました。障がいのある人たちが前に出て何かをしながら、地域の方と一緒に楽しむ…旭川版「愛は地球を救う！」を盛大に終えることが出来ました。オープニングでは太鼓のコラボや歌などが披露されま





した。事業所の休憩時間や家でも大好きな踊りを楽しんでいる、みんなから愛されるダウン症でもある Mr. 達哉が登場。うちわを持ったファンクラブの熱い声援の中、総合型地域スポーツクラブの東豊スポーツクラブのキッズダンスチームとのコラボで一緒に踊る場面もありました。子どもたちもどう関わってよいか最初はぎこちない感じがありましたが、段々とふれあっていくうちに微笑ましいパフォーマンスが展開されました。

現在、障がいの理解が進み、まちにいろいろな方が生活されています。核家族化や少子化が進む中、子どものころから障がい者や高齢者のいろいろな価値観とふれあうことの大事さを感じます。

その後、雨竜高等養護学校の太鼓クラブに太鼓を披露いただきました。寄宿舎の生徒を中心に夜に定期的に練習をつまね、今回は卒業された OB も来てくれました。OB やその家族の方々が SNS を通じてこの話を知り、私もという感じで数名の方が懐かしさと喜びを持って参加していました。学校を卒業したら終わりではなく、卒業後もつながりをつくる大事な機会だったようで、その後もイベントなど活動が広がってきているとのことでした。卒後に事業所など福祉的な支援を受けながら日々を過ごされている方の中には、家と事業所の往復のみで、養護学校時代に出来ていたことも出来なくなったり、趣味や居場所なども持て余す方が少なくないと思います。おそらく日中活動の場があればそれで良いのではなく、余暇の時間の重要さを感じ、このような市民活動等を通じて本人たちと向き合い、それぞれの居場所になっていくことを願っています。

その後は「バリアフリーきものファッションショー」です。桐華流日本きもの指導者協会北海道ブロックの皆様の支援をいただき、身体や精神的、発達など障がいのある18名の人たちがモデルとなり、生音でフルートの演奏の中、ホールのランウェイを歩いたのですが、緊張している方や、笑顔の方などそれぞれに自分らしさを表現しながら歩かれていました。最近はなかなか着る機会のない和服を着てみんなの前で歩くことで、それぞれ新たな自分を発見した感じでした。家族の方の中にも涙ぐんでいる方や、心臓に疾患があって、その後将来を

どうしたらよいか悩んでいた本人の母親も写真が新聞に載り、とても喜ばれ、それぞれのその人らしさに共感した瞬間がこの場所にあったような気がしました。着付け師はきもの文化の発表の機会を得て感謝の心を持ってほぼボランティアでサポートしてくださいました。

障がいのある方も着せ方など直接着付け師とやり取りしました。「きものを着たいけれども、着れるのだろうか?」「ちょっとでも転倒したら骨折してしまう」など、不安を抱えていた人たちも直接着付け師と何回かやり取りすることで不安も薄れ、当日ははれはれした表情で歩かれておりました。ほとんどの着付け師は、日頃障がいのある方と接する経験がないため不安だったと思いますが、このように向き合う機会を持つことにより、その方を知り、障がいを越えて人としてその後もつながりを持たれている方もいて、お互いが一歩踏み出した感じです。

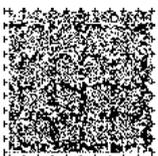
また、ファッションショーと言う形だけでない、何かを振り返り、踏み出す1歩につながる場だったような気がします。最後にみんなを巻き込んでよさこいを一緒に踊りフィナーレとなりましたが、1人1人が自らを自由に表現したいという想いがつまった時間でした。

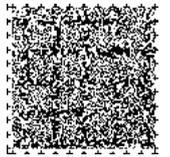
このイベントは、実際にイベントを行うというよりも、障がいのある本人たちを中心としながら「いかに遊ぶか?」をテーマに、楽しさをつくるというレクの基本と、聞く、伝えるという反復のメリハリとふくらみを地域の方や市民活動の方を多く巻き込んでいったということでしょう。これからも長くつづけていきたいと思います。



## RC222 (ミニッツ) との出会いと、踏み出す一歩について…

和のイベントやラジコン走行会など「レクスポあさひかわ」とコラボをしながら、ネットワークの中でつながっているのが RC222 (ミニッツ) で





す。RC222は障がいのあるなしに関わらず、いろいろな方とラジコンを通じた人とのつながりを追求している市民活動団体です。障がいのある人たちがまちでやさしく生きていくためにも、表現活動を応援したいという思いから、以前にもレクスポあさひかわの活動に参加した経験がある、発達障がいのある青山さんが描いた絵をラジコンボディに載せ、レースをしてみようということになりました。2016年12月3日には、青山さんの名前を冠にしたラジコン走行会「AOYAMA CUP」が行われ、実際に青山さんの描いたボディ数台でレースを行いました。当日は、青山さんご自身がメダルのプレゼンターを務めてくれました。絵を通じたコミュニケーションは、誰もが表現したい、自分らしくありたいという点で大切なものだと思います。

その後、ミニッツのメンバーである小池さんは、横浜で開かれたミニッツの全国大会に青山さんのボディを使用して出場しました。大会前には青山さんからボディの引き渡し式も行われました。小池さん自身、現在は学生で、ずっとラジコンを通じて障がいのある方と関わってきたので、僕に出来ることがあれば…と話されていた気持ちもうれしい限りでした。

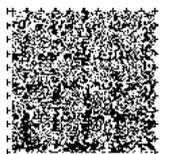
この後も青山さんの作品から始まる活動が続く中で、いろいろな作品が生まれ、人とつながりながら一つ一つカタチにしていこうと思っています。自分の団体もすそ野が広がってきている感じもありますが、お互いに市民活動団体が自分に固執せず、いろいろな角度や状況から向き合い続けることが大切であると思います。その中で互いのミッションが融合し、青山さんの表現と小池さんの想いが一つの形になったように、ともに歩んでいければと思います。「あなた」と「わたし」の価値観1つで全然違った形が生まれ、1つのつながりの中から無限の広がりを感じている今日この頃です。



## おわりに

他にも旭川の中でも初めての取り組みである、障がいのある方へのサポーター養成講習会や、旭川銀座通り商店街を使ったレク、銀座通りのほぼシャッター街になったところでレクを行った振り返りの写真展などを行ってきました。障がいのある本人を基調としながら、「地域が何かを変える」という発想のもと、大きな意味でのまちづくりにこれからも挑戦していきたいと思います。

出来る出来ないだけではなく、いろいろな可能性があることと、障がいのある方のスポーツと文化については、それぞれの障がいはそれぞれであることから、今はいろいろな方がいろいろな角度から活動している状況があると思います。旭川はパラスポーツが盛んな街であるので、障がい者スポーツ団体などともネットワークをつながりながら重度の障がいのある在宅の方に対しても、レクスポとしてはその方が踏み出す1歩を支援することを大事にしていけたらと思っています。ミッションを大事に、専門性が優先ではなくその人らしさを感じる楽しさと向き合っていきたいと思います。障がいのある人たちも地域の中でその人らしく生きていける、生きづらい人が出来る限り少なく、1人1人が前向きに生きていくための居場所作りを大事にしていきたいと思っています。社会のハードな部分だけでなく、ソフトな部分をサービス事業所だけでなく、任意団体、NPOなどがミッションを持って向き合うことが、これからとくに重要であると感じています。それぞれの活動をしている方とやりとりをして、ネットワークを育んでいく中で、大都市圏には出来ないことも旭川の地域の中で出来るような気がします。個人やグループを巻き込みながら活動を行っていることを全国にPRしながら、やさしい旭川を表現し、旭川市民が自分のまちのやさしさを感じ、旭川以外の方も何かを感じる機会を提供していきたいと思っています。夢は大きく、来年度も今年度行った活動を広げるにより、全国いろいろなところに発信していきながら、Eテレのバリバラのバリアフリー・ファッションショーに取り上げてもらえるぐらい感受性や想いを高めて、人のあたたかさを発信していきたい…そんな気持ちでいっぱいです。



# 社会保険 Q&A

**(問)** けがにより障害が残り、障害年金を請求したいのですが、書類作成が大変だと聞いています。障害年金請求までの流れについて、教えてください。

**(答)** 障害年金については、その原因となった病気やけががいつ生じ、現在、治っているのか、障害の状態（程度）はどうか、保険料は納付されているかなどの条件すべてを満たしたときに受給できることになっています。このため、医師の診断書などが提出すべきものとして求められ、障害年金の請求が容易でないといわれています。それでは、現在、年金事務所で行われている状況に合わせて説明します。

## 1. 障害年金制度の説明と病歴の確認

### (1) 障害年金制度の説明

年金事務所の相談窓口で、「障害年金ガイド」という冊子を使って、障害年金制度の説明を受けます。これは、これから受けようとする障害年金を理解するのに随分役に立つものです。「初診日」「障害認定日」といった専門用語が出てきますので、よく聞きましょう。

### (2) 病状及び病歴の確認

障害年金を請求しようとする病気やけがに関して、発病から現在までの病状や通院歴など病歴の確認のため、いろいろ相談員から聞かれることになります。

このときまでに、年金事務所から請求書類を受け取っているときは、次の二つの書類を用意しておくといでしょう。

#### ① 受診状況等証明書

病気やけがについて、一番初めに診察を受けた医療機関で記入・証明を受けます。この費用は、自己負担となります。

#### ② 病歴・就労状況等申立書

障害年金を請求しようとする病気やけがについて、入院・通院の状況やこの間の就労状況を記入します。

この申立書は、医師の診断書に次ぐ重要な書類とされていますので、前後のつながりにも気を付けたいものです。

## 2. 初診日と保険料納付状況の確認

### (1) 「受診状況等証明書」などにより初診日を確認

「初診日」とは、障害の原因となった病気やけがについて、初めて医師の診療を受けた日をいいます。同一の病気やけがで転医があった場合は、一番初めに医師の診療を受けた日となります。この初診日を確認する書類が「受診状況等証明書」です。この初診日に加入していた年金

制度により、障害基礎年金又は障害基礎・厚生年金の請求となり、請求書の様式が異なります。

(2) 初診日の前々月までの被保険者期間中に一定以上の保険料を納めているか確認

初診日の前日に初診日の前々月までの被保険者期間中に保険料納付済期間と免除期間を合わせた期間が3分の2以上あることが必要です。

初診日に65歳未満であると、直近1年間に保険料の未納期間がないことでも特例の扱いとなっています。

## 3. 障害認定日の確認

### (1) 障害認定日

「障害認定日」とは、障害の状態を定める日のことで、初診日から1年6か月を過ぎた日、又は1年6か月以内にその病気やけがが治った場合（症状が固定した場合）は、その日をいいます。

### (2) 請求方法（認定日請求・事後重症請求）の確認

障害認定日に一定の障害の状態にあるときは、その翌月分から障害年金を受け取ることができ、これを「認定日による請求」といいます。

障害認定日に障害の状態に該当しなかったが、その後病状が悪化して該当すれば、請求日の翌月から障害年金を受け取ることができ、これを「事後重症による請求」といいます。

## 4. 「診断書」、住民票など請求に必要な書類

### (1) 「診断書」

障害の部位によって、診断書の様式が異なります。また、いつの時点の障害の状態を記入した診断書が必要かは職員が説明してくれます。ときに複数となります。

この作成費用は、本人負担となります。

### (2) 必要な添付書類

これまでに挙げた書類以外に次のものが必要です。職員が教えてくれます。

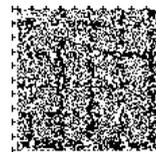
- ① 年金手帳又は被保険者証
- ② 戸籍抄本
- ③ 受けている年金証書の写し
- ④ 生計維持証明書類
- ⑤ 預金通帳
- ⑥ 印鑑

## 5. その他

年金事務所では障害年金の相談をすると、職員が相談内容をメモした書類をくれます。

年金請求書を提出後、結果の通知が届くまで障害基礎年金で3か月、障害厚生年金で3か月半かかります。

(回答：社会保険労務士 年金委員 高橋利夫)



# 第31回 障害者による書道・写真 全国コンテスト 結果発表

「障害者による書道・写真全国コンテスト」は、障害者の完全参加と平等をスローガンとした1981年の国際障害者年を記念して、1984年に東京（新宿区戸山）に設置された全国障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）が主催するもので、障害のある方々の文化・芸術活動の促進と技術の向上、またそれらの活動を通じた積極的な自己実現と社会参加の促進を目的に1986年から行っております。

今回、第31回大会には、全国から書道部門837点、写真部門180点（うち、携帯フォトの部9点）、合計1,017点という多数のご応募をいただきました。作品を出展していただいた皆様、ご協力くださいました関係各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

審査総評にもありますとおり、作品のレベルも年々向上し、甲乙付けがたく、審査は非常に難航いたしました。そのような中から、審査員の先生方の目に留まる素晴らしい作品を制作されました入賞者の皆様のお力には心より敬意を表します。ここに入賞された方々をご紹介します、入賞作品と審査員の寸評を掲載いたします。

## 審査総評

### （書道部門）

今年の夏はスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックが南米ブラジルで開催されました。日本選手の活躍に大きな拍手を送った方も多かったと思います。この日本中を沸かせた活躍の裏には、日々血の滲むような努力と長い修練の積み重ねがあります。選手にとって結果は、メダルであったり入賞であったり、あるいは不本意な成績であったかもしれませんが、しかし、真摯に努力する姿に皆感動を呼び起こされたのだと思います。

日々努力する!!長い修練の時間が求められ!!スポーツも書も一緒です。長い修練の時間による自信を細胞まで行き渡らせ、染み込ませることにより感動させる生き生きとした線が生まれるのです。毛筆という思い通りにならない用具を駆使しての表現ですので用紙に向かう瞬間は大変緊張するものです。それだけに納得のいく一つの点、一本の線が書けた時の感動は何物にも代え難い至福の時です。きれいな作品よりも美しく感動的な作品が生まれる瞬間を楽しむ為の修練ですから。

書表現の幅は大変広いものがあります。永年に渡る修練の高さを活かした流麗な表現、対して書の魅力を追求する為あらゆる規範を取り去った多彩な表現の領域の間にあらゆる表現の可能性が潜んでいます。

今回の出品作品数は837点でしたが、全体に端正な作品が多く大変高度な力量を発揮した作品群でした。それだけに大変審査に苦労致しました。入賞された作品は大変魅力的で感動を覚えた作品です。おめでとうございます。このコンテストは結果で無く普段の努力が楽しい、生氣ある線を引くことによるリハビリの一助に位置づけられています。

「継続は力なり」を心に刻みながら今後も書を楽しんで欲しいと思います。

渡部 會山

（創玄書道会審査会員、毎日書道展審査会員）

### （写真部門）

第31回障害者による写真全国コンテストにたくさんのご応募をいただきありがとうございます。身近な光景から雄大な自然まで全国各地から変化に富む作品が集まり、楽しく拝見させていただきました。

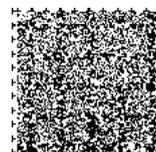
写真は、文化、言葉の違いを越えて、撮影者が、美しい、かわいい、すごいと感じたことを自分だけでなく人に伝えるための表現方法です。何を撮るか、何を表現するか、何に感動して撮影したのかといった撮影者の感性が重要になってきます。シャープで綺麗な作品というだけではなく、多少主題が画面からハミ出したり画面が傾いていても、撮った時の感動、想いが見る側の心に響く写真には強さがあります。

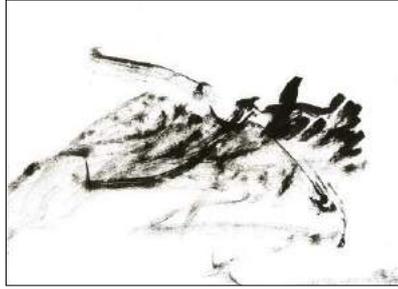
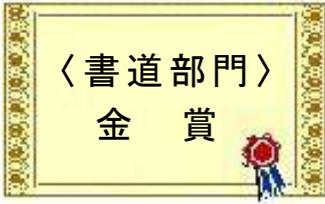
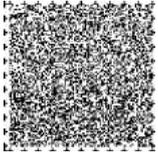
今回は応募作品の中から、撮影者の感動、想いが見る側にストレートに伝わり共感できる作品を中心に選びました。

写真表現は自由です。感性を磨き、好奇心を持って、楽しく写真をたくさん撮りましょう。

儀同 政一

（フォトグラファー）

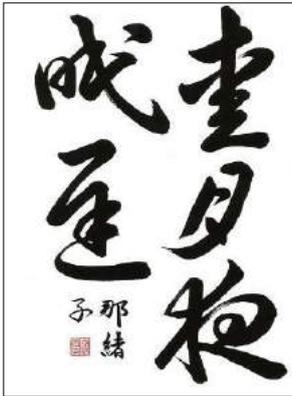




「羽ばたく」  
岩手県 濱田 朔矢  
羽ばたく鳥のイメージを大胆な運筆で躍動的に表現しています。軽やかに自由に大空を飛翔する姿が、渴筆の働きによって一層強調されました。十分に筆の特性を引き出した好作品です。



「越」  
千葉県 小池真由美  
大胆で力強く書かれています。線の充実度は強い心の現れです。どこまでも続くかのような長い線は、紙と毛筆との協奏曲を見ているような深い感動を呼び起こします。強い心に拍手！



「愛月夜眠遅」  
静岡県 杉本ナオ子  
永い修練の成果でしょうか、艶やかで温雅な線が語る世界は、明るく希望に満ちた春の野を想わせます。執筆に際し、余分な力が抜け自然な運筆の賜物です。執筆も見事で全体を引き締めています。



「はな」  
滋賀県 古谷 貴子  
見事な筆法で清々しく澄んだ線で表現しています。運腕を大きく取り、迷いの無い送筆に自信が溢れています。揺るぎ無い結構に緻密な心の動きを見せ、清楚な文字の姿態が十分現れています。



「嘉壽」  
愛媛県 高橋 克好  
隷書体ながら動的表現で力量を十二分に發揮しています。力強く引かれた線がゆったりとした力強い波法と上手に合致しています。包世民の重厚さを見る思いがする雄大な作と言えます。



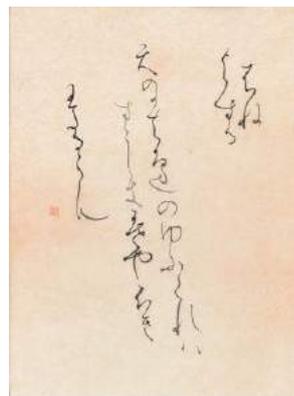
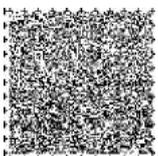
「永受嘉福」  
熊本県 鹿島 陽子  
濃墨で軟毛の筆を使用して大きな動きを出しています。筆先が良く紙に食い込んで強く明るい線となりました。布字の妙と共に作品造りの極意を十分会得して表現された高度な作品です。



「希望」  
熊本県 西村 光代  
すっきりとした伸びやかな線が特徴です。特に一字目の最終縦画は見事です。腕を広く開けて体全体を使用して書いています。余分な力の抜けた執筆姿勢がこの清清しさを生み出しています。



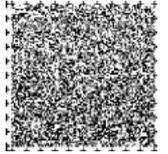
「仁」  
仙台市 野地 繁  
やや淡墨で滲みを活かした作品。孔子の教えの根本的理想である仁を隷書体に凝して何物にも動じない大人たらんとする意気込みを表現した好作品。世界が仁の心に満ちるならとの願いか。



「半紙かな部」  
千葉県 阿部 ちい  
ゆるやかに流れる水のように何物にも束縛されない自然な流れを見せて仮名作品の妙を出している。潤滑の変化に奥行きを出し、雅味ある線が織りなす所に心技体がよく合致した所を見せて見事です。



「かな」  
熊本市 川口 幸子  
心憎い程の柔軟な筆致を見せた歌一首の作品です。硬筆でこの表現をする方に敬服します。仮名を十分掌中としたリズムミカルな運筆が流れの美しい、しかもキリッとした強い線となっています。



「なかよし」

福島県 磯 和也

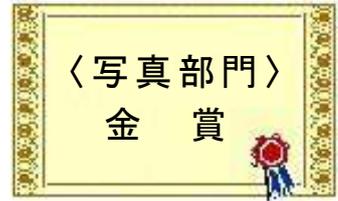
暖かな公園で、和気あいあいとした楽しい会話と笑い話声が聞こえる心温まる作品です。とても良いシャッターチャンスをとらえましたね。



「孫と楽しく」

長野県 太田 登

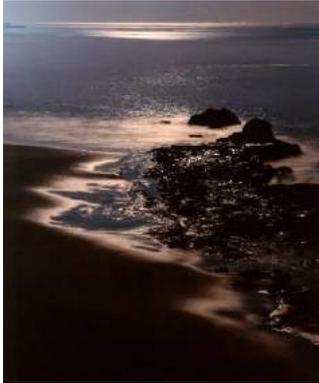
絵巻行列の休憩中、旅人と二人の稚児の楽しい話し声が聞こえてくるようで、大変微笑ましい作品になっています。



「雨上り」

岐阜県 可児 芳春

雨上がり日、植物の葉に付いた水滴にお城が映り込み、小宇宙が見事に表現されています。白い雲と赤いラインが作品を強めています。



月光により光る波の情景が刻々と変化していく一瞬をとてもよいシャッターチャンスで捉えており、幻想的で美しい作品になりました。

「月光の渚」

愛知県 浅井 由幸



「迫力」

京都府 三崎 美夫

ミサゴが池の中の魚を捕獲した瞬間を高速シャッターで見事に捉えています。ミサゴの力強い羽の躍動感と鋭い目が作品を一層引き立てています。



「しあわせ」

奈良県 前田 尚

母親の胸で熟睡する子、母親の我が子に対する愛情が伝わってきます。心が温くなる作品です。



「滝花火」

島根県 佐々木勝巳

逆光で飛び交う水しぶきをクローズアップにして、高速シャッターで撮ったように写しとられ、岩に付いた苔が黄色に輝き魅力的な作品になっています。



「コスモス」

徳島県 川田 幸弘

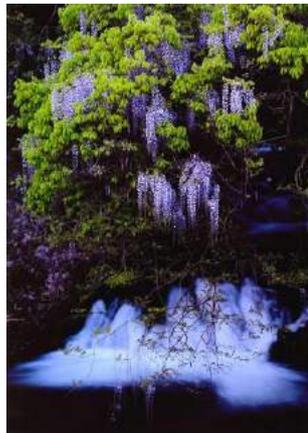
手前にコスモスを大きく写し込み、バックの青空に白い雲をリズムカルに配置したことにより、見ていて大変気持ちのよい作品に仕上がっています。



「すずしいね！」

札幌市 墨谷 留奈

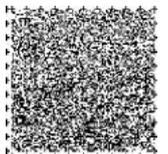
噴水を逆光で撮ったことにより水が美しく輝き、少女の涼しげで楽しそうな笑顔が想像できる作品です。

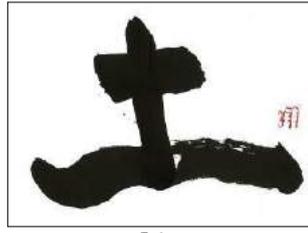
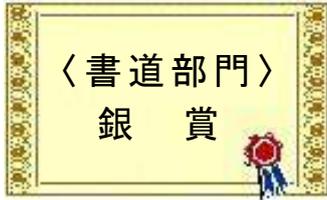
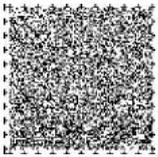


「早朝の溪流」

広島市 竹内 義幸

溪流の流れが滑らかなるようスローシャッターで撮り、花にスポット的に光が当たった瞬間を捉えたことで幻想的な写真になりました。





「土」

青森県 高橋 翔晟

堂々とした力感溢れる作品です。正に大地という万物を生育する生気に満ちた魅力ある線です。自然であることが自由な精神の発露であることをこの作品は示しています。豊かな心を感じさせます。



「遊」

千葉県 山口 芳枝

何の街にも無くすっきりと引かれた線が、広々とした空間を掴んで清々しいイメージを持った作品に纏められています。心遊ばせるという自由さを伸びやかな動きで上手に表現しています。



「竜胆」

東京都 喜多 正泰

行書のリズムに乗ってよく意先筆後の呼吸が発揮されています。心の動きが自然に運筆に現れて何とも言えない風情が感じられます。心眼という言葉が如実に現出させた努力に感動しました。



「釣り大会」

神奈川県 鈴木 紀子

じつと釣竿の先や浮きを見つめる集中力が出ています。作品を纏め上げる筆先の力の入れ具合は釣りと一脈通じるところがあると思えます。平静な心の動きが作品に奥行きを与えるのですから。



「千字文の冒頭より一部」

富山県 吉崎 英雄

四字熟語で八字成句の千字文を楷書で二百七十余字を一気に記して筆先にブレが無いという気力、胆力に敬意を表すると共に見事に書き切った力は本物です。自信を持って自分の書を高めて下さい。



「申」

岐阜県 田中 勝大

伸び伸び書かれて線に勢いがあります。気持ち平らかに余分な力みがないだらさが出ています。よく萎縮しないで長い縦画がスピードと筆の角度が合致して深みある線となっています。



「太鼓」

大阪府 前橋 正美

右払いの伸びやかさに魅せられます。屈託ない書き振りで表情豊かな作品です。豊かで明るい心がこの伸びやかさを生み、しっかりした布字で支えて上手に纏め上げて書いています。



「坐朝問道」

香川県 森澤 千代子

筆意豊かに線の切れ味を出しています。浮沈や抑揚という運筆の原理をよく理解して書いて、作品作りに手慣れた所を出しています。この線と布字の妙の為に尽くした時の流れを想わせる作品です。



「清陰花落後」

鹿児島県 安田ヒロエ

外連の無い運筆で端正な美を持つ作品です。作品を纏める力は見事なものがあります。一本一本の線を大切にしながらも全体を見る力があればこそこの纏め方です。キャリアの長さを示しています。



「夢」

沖縄県 照屋 和美

夢とは何かと問うような作品です。この文字に託された思いとこの表現力に感動しました。白と黒の美しさ！見事な落款！書とは継続することにより自分の世界を広げられることを現しています。



「絆」

さいたま市 池澤 恵美

この字程人間の営みに大切と思われた文字は少ないと思う。その思いを込めて一本の線を引く。力強くして生き生きと明るい明日に向かおうとする思いが傍の力強さと縦画の力強さに現れています。



「星を見る」

横浜市 青木 宏太

半紙に四字を纏めるには時間が必要ですが上手に纏めています。全体をよく見て文字のバランスを考慮しています。漢字の一本一本に注意して書いているのがよく理解できます。頑張りましょう。



「三思而後行」

堺市 山口 琢磨

座右の銘でしょうか、近頃は達成が大切との風潮がありますが、このように慌てずじっくりと考えて白い紙面に墨で記している。このゆるやかな動きが文意に沿った書き方となって奥ゆかしさを出しています。



「福雲如」

広島市 友井萌衣里

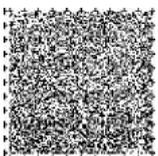
篆書体での表現です。よく筆先が線の中心を通った直筆が見事です。左右対称や線の丸味など篆書の筆法によく合致した書き方が安定感ある作品となりました。全体の布字も見事です。

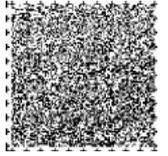


「一瞬」

熊本市 本多 司

人間の一生は宇宙から見れば一瞬ですが、その一瞬一瞬の積み重ねが人生です。その一瞬を大切に線を引く。努力する。その積み重ねがこの一瞬であり瞬です。強い線、颯爽とした線が見事です。

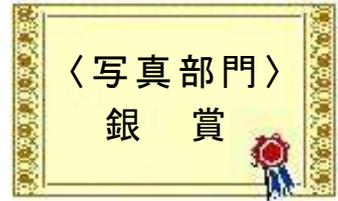




「straw」  
福島県 村上 美好  
オレンジ色の花をほかし背景を少し暗くしたことで、蜜を吸っている主役の蝶が強調され、美しく表現されています。



「サングラスの中のみなとみらい」  
神奈川県 小松 均  
アイテムと映り込みだけで暑い街が見えます。着眼点が大変面白い作品です。



「俺が一番だー」  
新潟県 武藤 忠  
あらかじめ撮影ポイントを決め、水しぶきをあげ懸命に水田を走る少年の顔が印象的に表現できた作品です。



「エビも大好物」  
兵庫県 金田 廣一  
カワセミは、外見の美しさから多くのカメラマンが捕食の瞬間を撮影していますが、この作品から小エビを捕食したカワセミの生命力を撮影できた作者の感動が伝わってきます。



「夕暮」  
山口県 古屋 朔子  
素晴らしい夕焼けに出会いましたね。パラボラアンテナと夕焼けに染まる黒い雲を大きく画面に取り入れ、作品に仕上げた作者の感性が素晴らしいです。



「静かな海」  
徳島県 平野 沙織  
きらきら光る静かな海をモノクロで幻想的に表現しています。この作品は、無駄を排した画面構成も効果的で、作者の意図をモノクロでストレートに表現することに成功しています。



「ある日のむし」  
仙台市 大山 健太  
撮影中に親指にとまった虫を、友達のように愛情を持ってしっかりと撮影したことで楽しい作品になりました。



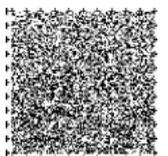
「初夏の彩り」  
仙台市 河本 悟  
ポピー畑とバックに残雪の残る山と白い雲を配置したことで、大変気持ちの良い作品です。

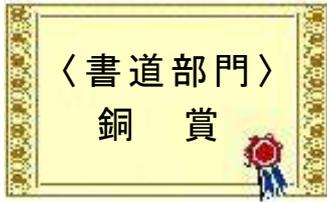
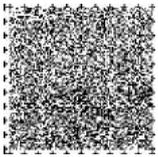


「僕にくれる「おはよう」の大好きな笑顔」  
仙台市 伊藤 怜央  
毎日、送迎してくれる運転手さんと支援員さんの笑顔がとても素敵に撮られています。伊藤さんの優しい視線が感じられる素敵な写真だと思います。



「わが憩いの場」  
福岡市 池永 静治  
力強く存在感のある松の枝が猫の居場所なのでしょう。猫の鋭い眼光を印象的に捉えています。





「なつ」

青森県 森田 大地

ゆったりした書き振りが作品に夏の海の温かさと心のよわらぎが出ています。線に含まれるやさしさと親しみやすさが魅力的な作品です。



「花」

青森県 菊地 優和

大輪のヒマワリのような生氣に溢れた力強い線が大変魅力的です。大地にしっかりと根を張った花一杯の草原を想わせる作品となりました。



「光堂」

岩手県 菊池 奈々

堂々と揺るぎない書線で表現された作品です。心に迷いが無く送筆が自然で澄んだ線になりました。「光」に感動の跡が窺え輝いています。



「漢字 (感謝)」

宮城県 佐々木一重

リズムカルに運筆された筆の軌跡は作中に颯々とした風を呼び起こしています。平静な心と自信に満ちた送筆がよく合致した見事な作品です。



「きくの花」

秋田県 小野 麗子

すっきりと立った菊の花のように迷いの無い送筆が香り豊かに表現されています。眼前に浮かぶような一行目です。二行目はやや疲れましたか？



「雪」

秋田県 賀村健太郎

横面のしっかりとした打ち込みと送筆が特徴で紙面を引き締めています。ベットへの思いが雨冠(あめかんむり)のやさしい点になった気がします。



「理想」

秋田県 加藤 愛菜

重厚な線で表現された思いは何にまじて大きく深いものがあります。しっかりと丁寧な書かれた線は気脈に満ち深さに溢れています。



「生きる力」

群馬県 佐伯亜矢子

すっきりと伸びやかな線が作品を大きく見せています。余分な力の抜けた送筆に練習の成果を見せ作品に清涼感が溢れています。



「山」

群馬県 上原 樹

谷川連峰の屹立した山のように孤高に聳えるイメージ通りでしょうか。心静かに丁寧に書かれています。遅筆ながら線の揺らぎが無い点が見事です。



「そら」

岐阜県 渡邊 直美

春の温かな陽気に誘われて草原に寝そべて空を見ているような優しい表現です。線はあくまで温かで緩やかな伸びのある所が見所です。



「福」

岐阜県 上田 雄真

豆色紙にバックの色を考へての表現です。線の強さと運筆の確かさに目を奪われます。行書の極意をよく掴んで書いた見事な作品です。



「森のくまさん」

滋賀県 森 夏生

青墨の淡墨作品です。墨色を上手に出して落ち着きある作品となりました。特に困った周囲の線は濁筆がよく生きて作品を引き立てています。



「遥かな水平線」

大阪府 田中 鈴子

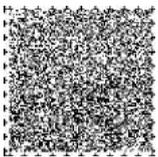
伸びやかで温かな線でよく作品を纏めています。この線を生み出す努力の時間は如何ばかりかと思わせます。構成力も見事なものがあります。

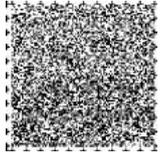


「せつでん」

大阪府 中野 春奈

タイムリーな素材を丁寧にそして流れるような無理の無い送筆で表現しています。平仮名の優しさと心の優しさがよく合致しているようです。





「手縫」

奈良県 下中真佐代

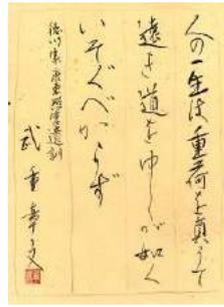
筆法を掌中として書かれた大変高度な作品です。線に強さと張りが見えるのは穂先が良く線の中心を捉えている賜物です。落款も見事です。



「桔梗」

島根県 松下 吉伸

転折に見る力強さがこの作品の特徴です。外連の無い大胆な動きが作品に緊張感を与えしっかりと紙面を捉えた線が堂堂とした作品になりました。



「徳川家康 東照宮遺訓より」

山口県 武重 章文

よく知られた家康公の言葉を座右の銘とした思いが伝わります。二行目以下の流れが勇ましく文字を良く咀嚼して大きく空間を捉えています。



「我」

宮崎県 庄籠 康尋

筆の弾力を多量により十分引き出しています。線に深みと融通無碍な心の動きが魅力的です。名前も立派で作品を一層濃厚なものにしています。



「涼風」

宮崎県 村田 香織

風に見る強さは特筆なものです。手首の柔らかさと脇の広さがこの強い線を生み出して、作中に清涼感を与えてよく引き締めています。



「安心」

鹿児島県 川平 光子

硬筆による作品ですがよく落ち着いて書かれています。送筆に迷いが見えないのは永年の修練の賜物。軽快な行書リズムが見事です。



「舞」

札幌市 岩間智恵子

颯爽と切れ味の鋭い線が作品に動きと広がりを与えています。大きな運腕と外連の無い送筆が作品に生き生きとした生命感を与えて見事です。



「相敬」

札幌市 植田 佳子

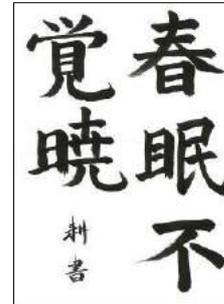
敬愛の念で書かれたのでしょう。線に丸みがあり温かな心の動きが見られます。余分な力の抜けたしっかりとした運筆が見事な作品を作りました。



「蜂」

静岡県 坂田 響

蜜蜂が熊蜂のようですね。大胆な筆使いで大きく動いた成果は作品に生命力を与えています。何物にも束縛されない豊かな心の動きを見せています。



「春眠不覚曉」

広島市 村松 耕

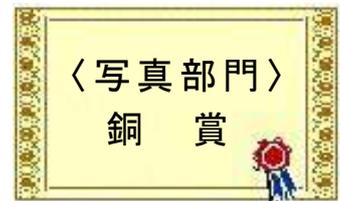
一本一本の線を大切に丁寧に書かれています。筆の角度に統一性が見られ良く纏めています。難しい右払いなどに練習の成果を見せています。



「一步」

広島市 佐藤 浩正

元気に楽しく散歩する心の動きがよく出ています。一步のイメージを点として表現するなど対比構成などに非凡なものを見た見事な作品です。



〈写真部門〉

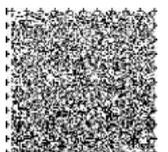
銅賞

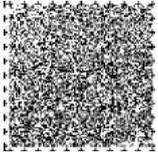


「威風堂々」  
青森県 外崎 新一  
下から見上げるような角度で撮影したことで、風雪に耐え力強く生きる松の木の生命力が表現できました。



「奥入瀬の春」  
青森県 対馬 健  
PLフィルターを使ったことで若葉とレンゲツツジを鮮やかに写し撮り、スローシャッターで渓流の滑らかな流れを撮影したことで、静と動の相乗効果がみられる作品です。





「いつも仲良し！」

岩手県 高橋 暖恵

二人の手の温もりが伝わってくる作品です。特に二人の手を手前にして強調して撮影したことが、成功しています。



「女子会」

岩手県 伊藤 充希

ブランコに乗った仲良しの二人の会話が聞こえてくるような作品です。フレーミングより直感で撮ったことが成功しています。



「快速SL YOGISHA 碓氷号 横川駅停車」

群馬県 白石 達也

夜に撮影したことで、照明に反射する黒いSLの存在感が力強く表現されています。



「あたしも食べたいよ」

群馬県 星河 英雄

親ツツバメから餌をもらっている子ツツバメ、餌を待つ黄色い大きな口を開けた子ツツバメが可愛く捉えられています。



「湖面の魔術師」  
長野県 佐藤 一江  
湖面に映る木の枝と木の葉の色を排し墨絵のようにモニターで美しく表現されています。手前に入れた木の幹が効果的です。



「はる、なにやっとなるの？」  
岐阜県 小木曾 蒼  
拾ったドングリを出し入れしている子どもの好奇心が表現されています。子どものかわいらしい手足の仕草も効果的です。



「別れの時」

岐阜県 北村 幸夫

青い海と白い波しぶきを舞い上げて疾走する小型船の躍動感とクルーズを楽しむ人々が気持ちよく表現されています。



「旅先でのイルミネーション」

岐阜県 中村 直樹

湖面に映る建物、青白く光るイルミネーションを手前からS字カーブに入れたことで、美しく魅力的に表現されています。



「彩の置き土産（落ちても綺麗）」

岐阜県 松野 一二三

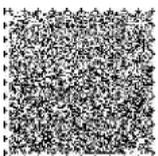
NDフィルターを使い、スローシャッターを切ることで、湖面に浮かぶ紅葉した木の葉をアートにした感性が素晴らしいです。

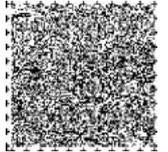


「花に休む」

静岡県 佐藤 誠

アゲハチョウが蜜を吸っている瞬間をシャープに表現しています。バックをぼかしたことで、蝶と花の美しさが強調されました。





「楽しい日」  
愛知県 原 哲士  
ハイキング大会に参加した二人の仲の良い関係が写しだされ、見る側に伝わってきます。



「観潮の醍醐味」  
兵庫県 岩倉 育男  
奥に吊り橋と船を、手前に荒い波を配置したことで、鳴門海峡のダイナミックな渦潮を見た作者の感動が伝わってきます。



「早朝の睡蓮」  
奈良県 西田 榮三  
早朝に生き生き咲き始めた睡蓮と、朝日に輝く湖面が大変美しく撮られています。



「国宝五重塔 雪景色」  
山口県 大平 悟  
雪が降りしきる寒い中、雪が積もった白い五重塔を木の幹の間に入れたことで、五重塔の景観を引き締めました。



「ふたり」  
香川県 木村 明  
大変美しい夕日ですね。そこに木と二人の人をシルエットとして入れたことで、大変洒落た作品になりました。



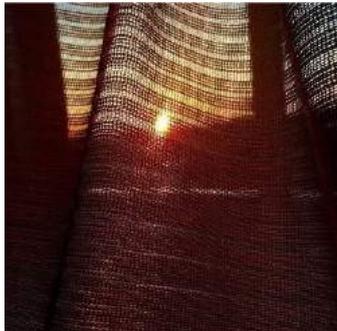
「ドイツ・ミュンヘン市ニンフェンブルグ城」  
仙台市 佐藤 勝利  
空に浮かぶ白い雲と赤い屋根の白い城がシンメトリーに池に写り込み、フォトジェニックな作品になりました。



「田んぼの水かがみ」  
広島市 森島 基裕  
青い空と赤い電車が水田にシンメトリーとなって鮮やかに写り込み、大変美しく表現されています。



「はじける若さ」  
広島市 太田 一正  
はち切れんばかりの若さ弾ける踊りと笑顔が見事に捉えられています。見ている私たちも元気をもらえる作品です。



「眩しいものは眩しい」  
秋田県 遠織  
カーテン越しでも輝きを失わない太陽を見て、何時までも輝いていたという撮影者の想いが伝わる作品です。



「空に手を伸ばす」  
さいたま市 浅香 歩  
大地に根を張り、青空に向かってのびやかに広がる木の枝を見て、自分もあの木の枝のようにのびやかに生きたいという撮影者の想いが伝わってきます。

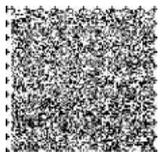
戸山サンライズ (通巻第272号)

発行 平成28年12月25日

発行人 公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 会長 炭谷 茂

編集 全国障害者総合福祉センター

〒162-0052 東京都新宿区戸山1-22-1 TEL.03 (3204) 3611 (代表) FAX.03 (3232) 3621  
<http://www.normanet.ne.jp/~ww100006/>





ソウェルクラブ  
**Sowel**  
CLUB

会員数

**25.1**万人

(平成28年6月現在)

新規会員募集中

福祉の職場で  
働く人を  
支援しています。

### 福利厚生センター(ソウェルクラブ)は…

社会福祉事業等に従事する方の福利厚生を全国一括で展開し、スケールメリットを生かすことにより、個々の法人では実現が難しい充実したサービスを提供しています。

1

#### 加入対象拡大!

平成28年4月から有料老人ホームや医療系の介護保険施設・事業に従事する職員の方々も加入対象となりました。

2

#### ソウェルクラブ ならではのサービス

健診費用の助成、健康生活用品給付、各種お祝品、弔慰金をはじめとした基本サービスに加え、地域密着サービス、クラブオフなど幅広いサービスを展開しています。

3

#### 掛金はわずか年1万円/人

会員1人当たり年1万円のご負担のみで、ソウェルクラブが提供する全てのサービスが利用できます。また、サービスを一部限定した非常勤職員向けコース(年5千円)もございます。

ソウェルクラブ  
**Sowel**  
CLUB

ソウェルクラブの資料請求、加入のお申し込みは  
**社会福祉法人 福利厚生センター**

<http://www.sowel.or.jp>  
TEL ☎ 0120-292-711

詳しくは  で  または、お電話でお問い合わせください。  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1 NBF小川町ビル10階